

「ワークサンプル幕張版（MWS）」新規3課題による効果的なアセスメント及び補完方法の獲得に関する調査研究

（調査研究報告書 No.175）サマリー

【キーワード】

MWS 新規課題 ワークサンプル幕張版

【要約】

障害者職業総合センター研究部門においては、2019年度に、ワークサンプル幕張版（MWS）新規課題（以下「MWS 新規課題」という。）を開発し（障害者職業総合センター,2019）、2020年度末から市販されている。

MWS 新規課題は、特に作業遂行力の高い対象者に対してはアセスメント、就職や復職に向けた支援において効果を発揮するものの、MWS 新規課題の活用に伴う支援者の負担を軽減する必要性が指摘されていた。

そのため、本調査研究では、支援者の負担軽減策として、MWS 新規課題についてイメージを与える「活用モデル」を開発することを目的として研究活動を行い、「ワークサンプル幕張版（MWS）新規課題活用ハンドブック」を作成した。

1 執筆担当（執筆順）

藤原 桂 （障害者職業総合センター障害者支援部門 主任研究員）

武澤 友広 （障害者職業総合センター障害者支援部門 上席研究員）

村久木 洋一（元障害者職業総合センター障害者支援部門 上席研究員、現国立吉備高原職業リハビリテーションセンター 主任障害者職業カウンセラー）

田村 みつよ（元障害者職業総合センター障害者支援部門 上席研究員）

2 研究期間

2022年度～2023年度

3 報告書の構成

序 章 本調査研究の背景・目的及び方法

第1章 活用状況質問紙調査

第2章 活用事例に関するヒアリング調査

第3章 活用モデルを含むハンドブック（素案）の試作

第4章 ハンドブック（素案）の改良

第5章 試用評価

第6章 総合考察

巻末資料

4 調査研究の背景と目的

障害者職業総合センター研究部門においては、「ワークサンプル幕張版」（以下「MWS」という。）を開発し、2007年度よりMWSを構成する13種類の課題（以下「MWS既存課題」という。）が市販されている。その後MWS既存課題の利用者を対象とした実態調査の結果に基づきMWS新規課題を開発し、2020年度末から市販されている。

MWS新規課題は、MWS既存課題より難易度が高く、OA作業としての「給与計算」、事務作業としての「文書校正」、実務作業としての「社内郵便物仕分」で構成されている。

障害者職業総合センター（2019）によれば、MWS新規課題の活用に関する課題の1つとして、「MWS新規課題の活用に伴う支援者の負担」が挙げられており、その内容は、「MWS新規課題の手続きを理解するための心理的なハードルの高さ」と「結果の処理に関する時間的コスト」であるとされている。これらの負担を軽減するための情報は、現行においては「実施マニュアル」に掲載することで対策を行っている。しかし、この対策により負担が軽減されたかどうかは明らかではなく、地域の就労支援機関でのMWS新規課題の活用に伴う負担については、活用状況とその課題を把握した上で対策を検討する必要がある。このため、本調査研究では、MWS新規課題の活用に伴う負担の軽減策の1つとして、活用方法についてイメージを与える「活用モデル」を開発することとした。

本調査研究を進めるに当たっては、①MWS新規課題の普及媒体により提供すべき情報を検討すること、②①の検討を踏まえ活用モデルを含むMWS新規課題の普及媒体を試作すること、③②で試作したMWS新規課題の普及媒体を就労支援の専門家や就労支援機関の支援者の意見を踏まえて完成させることの3点を目標として設定した。

5 調査研究の方法

(1) 活用状況質問紙調査

MWS新規課題を購入している機関に対して活用の実績、活用が進まない場合の活用阻害要因に関する質問紙調査を行った。調査対象は、地域障害者職業センター（支所を含む。以下「地域センター」という。）52か所、地域センター以外の事業所23か所に対して行った。

(2) 活用事例に関するヒアリング調査

就労支援の現場においてMWS新規課題の活用状況を把握するため、地域の就労支援機関に対して活用事例の収集を行った。調査対象は、障害者職業総合センター職業センター、地域センター4か所、障害福祉サービス等事業所1か所を対象とした。

(3) 活用モデルを含むハンドブック（素案）の試作

障害者職業総合センター（2019）の記載内容、活用状況質問紙調査の結果を基に「ワークサンプル幕張版（MWS）新規課題活用ハンドブック（素案）」（以下「ハンドブック（素案）」という。）を試作した。

(4) ハンドブック（素案）の改良

MWS新規課題に関する知識を有する3名の有識者に対して上記（3）で試作したハンドブック（素案）への意見を求めるヒアリングを行った。ヒアリングで聴取した意見を基に、ハンドブック（素案）の改良を行った。

(5) 試用評価

改良を加えたハンドブック（素案）（以下「ハンドブック（案）」という。）を地域の就労支援機関（以下「協力機関」という。）に提供し、その有効性について評価を求める試用評価を行った。試用評価の流れを下図に示す。最初に協力機関に対して試用評価の流れについて説明し（ア）、その後、試用評価の準備状況の確認（ウ）を行い、協力機関によるMWS新規課題を活用した支援を行っていただく（エ）。支援の終了後に、協力機関では支援の対象者の情報を実施記録シートに記入し、ハンドブック（案）への評価等を質問紙に記入いただく（オ）。最後に、実施記録シートや質問紙への回答内容を確認するための面接調査（カ）を行う流れになっている。

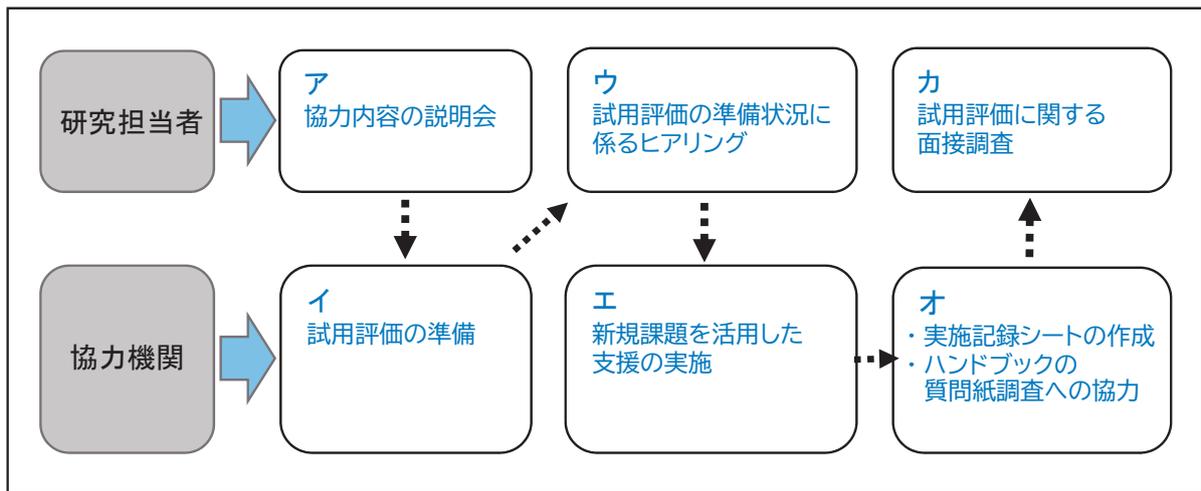


図 試用評価の手順

以上の試用評価によって得られた情報を基に、ハンドブック（案）に改良を加えた。

6 調査研究の内容

(1) 活用状況質問紙調査

活用状況質問紙調査では、①地域センター以外の事業所から14人、14か所の回答があり、②地域センターから85人、48か所の回答があった。地域センターに比べ地域センター以外の事業所からの回答数は少ない状況であった。

地域センター以外の事業所では、回答数が少ないため、傾向を示唆する程度となるが、給与計算と文書校正については購入されている割合が高いものの、活用率は3～4割で十分に活用されていない状況が分かった。

地域センターでは、回答者のうち最も支援に活用されているのは社内郵便物仕分（75.3%が活用）、次いで給与計算（52.9%が活用）、最も活用が少ないのは文書校正（30.6%が活用）となっていた。

活用していない理由については、地域センター及び地域センター以外の事業所ともに3課題を通じて「課題の実施方法によくわからないところがある」の回答が過半数を超えており、対策が必要と考えられた。また、課題別に見ると、給与計算と文書校正で「自機関では課題の適用対象となるサービス利用者がいない」が多かった。

活用効果については、地域センターでは、復職や就職に向けた「準備状態の共有」支援や、「職務遂行力向上」支援の効果を高く評価していた。

MWS新規課題を用いた支援方法については、支援者との対面での一時的な支援とフィードバックを行う活用方法が中心で、障害特性の理解や補完方法の習得といった活用方法には至っていない状況が窺われた。

(2) 活用事例に関するヒアリング調査

ヒアリング調査の結果として9事例を収集した。収集した活用事例において、給与計算と文

書校正では、課題の理解力等について一定レベル以上の能力を有している者が対象とされていた。また、MWS新規課題による支援の目的については、①希望職種等への適応可能性の評価、②ストレス対処や特性理解、③能力的側面の評価、④補完方法の確認と練習、⑤集中力等の訓練に分類された。

さらに、MWS新規課題に対する意見としては、サブブックの難しさや、課題の難しさから作業時間が長くなる場合があることなどについての意見があり、活用モデルを作成する際の参考とした。

(3) 活用モデルを含むハンドブック（素案）の試作

活用モデルを作成した。そして、活用モデルにより活用イメージを与えることはできるが、活用モデルの内容がどのように具体的な支援の流れに関連付けられるのかは活用モデルだけでは分かりにくいと考えられたため、活用モデルの内容を具体的に説明するものとして活用事例を作成することとした。活用事例は、障害者職業総合センター（2019）に掲載されている事例を基に作成した。

また、活用状況質問紙調査の活用阻害要因に関する調査結果からは、MWS新規課題の対象者や有効性等に関する情報提供、実施マニュアルの内容などについての情報提供が必要と考えられた。

以上の検討から、活用モデル、活用事例、MWS新規課題の概要や実施方法等に関する知識情報を掲載したハンドブック（素案）を試作した。

(4) ハンドブック（素案）の改良

専門家へのヒアリングでは、「地域の就労移行支援事業所での活用方法を示してほしい」、「図表による説明を行い分かりやすい内容にした方がよい」、「対象者の動機付けなどの誘導方法が書いてあると良い」などの意見があった。ヒアリングで聴取した意見を基に、ハンドブック（素案）の構成を検討し、①既に刊行されている書籍の中で説明されている事項は、ハンドブック（素案）の中では説明せず、その書籍を紹介する内容を載せる、②活用事例は「活用事例集」としてまとめる、③対象者の誘導方法を例示する「対象者への対応に困ったら」の項目を設けるよう修正した。また、活用モデルの内容を、課題間で比較できるように並べ直した。

ハンドブック（素案）の改良に当たり、上記（2）の活用事例に関するヒアリング調査で収集した活用事例を基に、活用事例集を作成し掲載した。

(5) 試用評価

試用評価では、3か所の協力機関において、4名の支援者がハンドブック（案）を読んだ上で、8名の利用者に対してMWS新規課題による支援を行った。その後、支援を担当した支援者に対して質問紙と面接によりハンドブック（案）の有効性についての調査を行った。

質問紙への回答結果では、「問1 ハンドブックの内容はMWS新規課題を活用した支援を実施するにあたり参考になりましたか」の質問に対して、支援者は「非常に参考になった」又は「すこし参考になった」のいずれかの回答であった。「問2 ハンドブックの利用効果について」の質問に対しては、MWS新規課題を使用するタイミングについて「あまり具体的なイ

イメージを持つことができなかった」の回答が1名からあった以外は、「非常に具体的なイメージを持つことができた」又は「すこし具体的なイメージを持つことができた」の回答であった。

「問2（5）新規課題を活用した支援を実施する中で疑問が生じた際、ハンドブックを読むことでその疑問はどのくらい解消できましたか」の質問に対しては、「あまり解消できなかった」の回答が1名からあった以外は、「完全に/ほぼ解消できた」又は「すこし解消できた」の回答であった。質問紙への回答結果からは、ハンドブック（案）の記載内容は、活用イメージを提供する上で概ね有効であると考えられた。

ハンドブック（案）の改善点についての意見としては、活用モデルに関して「エラーと障害特性の関係が示されていると良い」という意見、「対象者への対応に困ったら」に関して「MWS新規課題の実施ステップに沿った対応例を記載してほしい」などの意見があった。

試用評価に協力をいただいた支援者に対する面接調査において、ハンドブック（案）が協力機関が行う支援にどのような影響を与えるかについて聞き取った結果を表1に示す。支援者からは、「利用者の様々な側面を見ることができるといことが分かった、今後も利用者には行ってもらう」、「MWS新規課題を使う職員が増える」といった意見があった。これらの意見からは、「MWS新規課題を使用する機会が増える」、「使用する支援者が増える」、「これまで使わなかった課題を使うようになる」、「対象者への説明をより詳しく行える」という方向への影響が期待される。

表1 協力機関の職員がハンドブック（案）を読むことによる支援への影響等

番号	意見
①	●今後のMWS新規課題の活用について、こういうハンドブックが作られたことで、利用者の様々な側面を見ることができるといことが分かった。今後も利用者には行ってもらうと考えている。
②	●今後、MWS新規課題の活用の幅が広がると思う。社内郵便物仕分以外の課題についても活用してみようと思う。活用方法としては、対象者の職種や可能性などについて、アセスメントというよりも、イメージを持ってもらったり作業体験として使うという方法もあるかもしれないと思った。
③	●法人の中で、MWS既存課題は以前から使っており、MWS新規課題を2年間くらい使っている。しかし、職員全員がMWS新規課題を使えるかというところではない。慣れていない職員がどうやって使ったらいいかという場合に、ハンドブックがあると使いやすくなるのではないか。
④	●こういったハンドブックがあることで他の職員にも説明ができると思う。また、MWS新規課題を使う職員が増えるということも考えられる。自分にとってもMWS既存課題よりも難しいので、こういったエラーをどうとらえたらいいか、こういう相談の対象者に使えるかという場合も、ハンドブックの事例を見ることで考えやすくなったかと思う。 ●MWS新規課題を行う際には、サブブックを見てくださいという指示、言い方になり、質問があっても同じ返し方になる。しかし、ハンドブックがあることで何のためにMWS新規課題を行うのかを説明しやすくなるのは良いと思う。

(6) 考察

上記4において述べた本調査研究を進める上での3つの目標に従い研究活動を進め、「ワー

クサンプル幕張版（MWS）新規課題活用ハンドブック」（以下「ハンドブック」という。）を作成した。表2にハンドブックの構成を示す。

表2 ハンドブックの構成

「新規課題について知りたい」	
●新規課題とは	
●新規課題の特徴	強化された機能／課題の発見と対策／既存課題よりも高い難易度の設定
●実施方法を知るための参考資料	新規課題の概要を動画により確認したい／新規課題の実施手続きについて知りたい／新規課題の概要を対象者に簡潔に説明したい／対象者への簡易版の教示や対応等を支援現場で確認したい／エラーの内容や補完方法を確認したい／ワークサンプル幕張版で採用されているABA法について知りたい／ワークサンプル幕張版の背景理論が知りたい
●新規課題を使用する際の留意事項	課題の難しさとストレス／新規課題を複数組み合わせる／作業の概要を十分に説明する／既存課題を活用する／新規課題を活用する目的を対象者と共有する／簡易版を活用する際の留意点／簡易版と訓練版の使い分け方
●対象者の理解力に応じた作業指示	
「活用方法について知りたい」	
●活用モデル	簡易版活用モデルと訓練版活用モデルの共通事項／①簡易版活用モデル／②訓練版活用モデル
●活用事例集	補完方法の必要性を認識した事例／自身の特性理解と就職への希望を整理した事例／補完方法への自信を深め就職につながった事例／復職に向けて疲労・ストレスへの自覚を持った事例／効果的な支援方法を確認した事例／作業遂行力の向上と補完方法の習得により自信の獲得につながった事例
「対象者への対応に迷った時は」	
●支援の開始時	①過集中傾向が見られる／②課題への違和感を訴える／③課題への理解が進まず時間が経過する
●訓練時	④エラーのフィードバックにより不安感を強くした／⑤訓練版への移行の判断に迷う／⑥補完方法の提案を受け入れてもらえない
●結果のフィードバック時	⑦ネガティブな感想が聞かれる／⑧振り返りが深まらない／⑨結果の受け入れで不安定になる

本調査研究の目的は、MWS新規課題を実施する際の支援者の負担を軽減することにあった。試用評価の結果からは、ハンドブックはMWS新規課題の活用についてのイメージを与える上で概ね有効であると考えられる。これまでMWS新規課題を使った経験がある支援者はより有効に活用し、使ったことがない支援者も支援に活用するようになるなどの効果が期待される。

なお、本調査研究の限界と課題として以下の点が挙げられる。

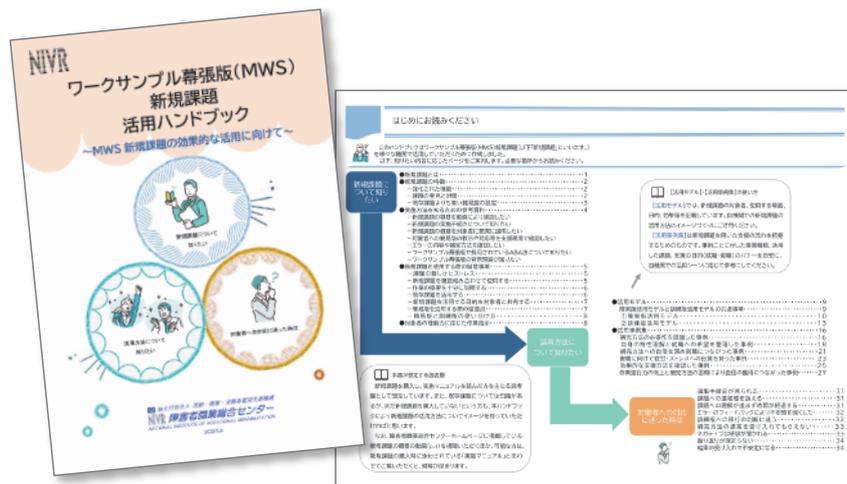
- ① ハンドブックの活用事例を、実際に収集した事例によってまとめるためには、MWS新規課題を普及させることによって活用に関する情報の積み上げが必要となる。
- ② ハンドブックはできるだけ分かりやすい内容となるよう工夫をしているが、多忙な就労支

援機関においてハンドブックの内容を容易に理解できるようにするためには、動画との併用も有効であると考えられる。

- ③「職場適応促進のためのトータルパッケージ」に含まれるMSFAS等のツールとの組合せによる「セルフマネジメントスキルの獲得に向けた支援」については、ハンドブックでは詳しく記載し切れないため、関係資料を参照することが必要となる。

7 関連する研究成果物

- ・ワークサンプル幕張版（MWS）新規課題活用ハンドブック,2024



(<https://www.nivr.jeed.go.jp/research/kyouzai/kyouzai80.html>)

- ・障害の多様化に対応した職業リハビリテーションツールの効果的な活用に関する研究,調査研究報告書No.164,2022
- ・トータルパッケージ学習テキスト/伝達プログラム講師用手引,2022
- ・職場適応促進のためのトータルパッケージツールを活用した実践事例集,2022
- ・障害の多様化に対応したワークサンプル幕張版（MWS）改訂に向けた基礎調査,資料シリーズNo.72,2013

【参考文献】

- ・障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発（その2）－ワークサンプル幕張版（MWS）新規課題の開発－,調査研究報告書No.145,2019